

鉄筋工事監理状況報告書

年 月 日

福山市長（建築主事）様
指定確認検査機関

住所
工事監理者
名 前
()建築士()登録第 号
()建築士事務所()知事登録第 号
電話番号

次のとおり、工事の監理状況を報告します。
この監理報告書に記載の事項は、事実と相違ありません。

項目	報 告 内 容			
	報 告 事 項	照合を行っ た設計図書	確認方法	確認 結果
1 材料	①共通 ・鉄筋（規格・種類・径・品質証明） ・スペーサー（材質・形状・寸法） ・溶接金網（規格・径・網目の形状・寸法）		A・B・C	
2 施工	①圧接継手 ・資格（圧接技能者・圧接継手管理技士・鉄筋ガス圧接超音波探傷検査技量資格者） ・溶接作業条件（降雨・強風） ・圧接端面（平滑処理・面取り・鉄筋冷間直角切断機の使用） ・径の異なる鉄筋の圧接 ・圧接の位置及び隣接する鉄筋の圧接位置との間隔		A・B・C	
	②特殊な継手 ・機械式継手（工法・外観） ・溶接継手（工法・外観・溶接長さ）		A・B・C	
	③配筋 ・加工（種類・径・長さ・折り曲げ） ・あばら筋の加工形状（接合する部材の寸法を考慮） ・組立（結束・鉄筋位置・本数・最小かぶり厚さ・鉄筋主筋相互のあき・帯筋間隔・あばら筋間隔・鉄筋の水平度と垂直度） ・継手（位置・長さ・方法） ・定着（位置・長さ・方法・余長・フック） ・貫通孔補強，開口補強，打ち継ぎ部の補強，打ち増し部の補強 ・スペーサー（形状・位置・間隔） ・差し筋の位置と長さ		A・B・C	

項目	報 告 内 容			
	報 告 事 項	照合を行っ た設計図書	確認方法	確認 結果
3 試験	①ガス圧接 (1)共通 ・外観（ふくらみの形状・寸法・圧接面の ずれ・圧接部の折れ曲り・鉄筋中心軸の 偏心量・たれ・焼き割れ） ・内部欠陥（不溶着部） ・試験片抜取り後の処置		A・C	
	(2)不合格となった圧接部の修正 ・外観試験の不合格部の修正 ・抜取り試験による不合格部の修正		A・C	

- 注 1 この様式は、完了検査申請書（建築基準法施行規則別記様式第19号）又は中間検査申請書（建築基準法施行規則別記様式第26号）の第4面（工事監理の状況）に掲載している「主要構造部及び主要構造部以外の構造耐力上主要な部分に用いる材料（接合材料を含む。）の種類、品質、形状及び寸法」及び「主要構造部及び主要構造部以外の構造耐力上主要な部分に用いる材料の接合状況、接合部分の形状等」に記載すべき事項を含む報告書とする。
- 2 工事監理者の名前の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができる。
- 3 完了検査申請書にこの様式を添付する場合、特定工程に係る建築物にあつては、直前の中間検査までの工事監理の状況についての記載は不要とする。
- 4 具体的な確認方法は、工事監理ガイドライン（平成21年9月1日国土交通省住宅局建築指導課）等を参照すること。
- 5 該当がない項目の記載は不要とする。
- 6 「照合を行った設計図書」の欄は、建築基準法施行規則第1条の3に規定する図書等のうち、工事監理で照合を行った図書を記載すること。
- 7 「確認方法」の欄は、A・B・Cのうち、該当するものを○で囲むこと。Cに該当する場合は、確認に用いた具体的な書類を記載すること。Cで確認した書類は、検査時に確認する必要があるため、現場に備え置くこと。
A：目視（試験）による立会確認
B：計測等による立会確認
C：自主検査記録・施工記録・測定記録・材料搬入報告書・工事写真・資格証明書・施工図・試験成績書等による確認
- 8 「確認結果」の欄は、「適」・「不適」のいずれかを記入し、工事施工者が注意に従わなかった場合は「不適」を記入すること。また、不適の場合には建築主に対して行った報告の内容を記載すること。
- 9 不用の文字は、消すこと。
- 10 用紙の大きさは、日本産業規格A列4とする。